

評価者	教育部	佐藤 尚之
-----	-----	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	安全・安心で開かれた学校づくり
目標とすべきま ちの姿	児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送っています。家庭や地域社会が学校教育に求めるだけでなく、それぞれ本来の役割を担い児童生徒の育成を図っています。また、学校・家庭・地域が協力して、すべての児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組が進んでいます。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	21.5%	平成27年度	24.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	0.5%	0.3%
ちょうどよい	1.4%	55.4%	1.7%
効果不十分	1.6%	1.2%	9.3%

平成26年度

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	1.1%	0.1%
ちょうどよい	2.0%	52.1%	1.9%
効果不十分	1.4%	2.3%	8.3%

平成27年度

<妥当性の分析>

仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が52%と高いポイントであり、当施策は妥当であると分析できる。また、次に多いのはお金の使い方が「足りない」、効果「不十分」が8%であり、もっと力を入れるべきとの市民意識が高いと考えられる。

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	18.2%	52.9%	2.4%	26.5%	100.0%
平成27年度	18.6%	49.6%	1.7%	30.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。児童・生徒の良好な教育環境を維持するため、学校や関係部局との連携を図り、計画に沿った業務の遂行に努めていく。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
教育-01	教育委員会運営事業	6,185	6,169	16,075	16,063	1.3	1.3	b	B
教育-02	事務局運営事業	86,022	89,714	110,069	114,830	3.3	3.3	b	B
教育-14	学校安全対策事業	34,152	38,093	34,895	38,843	0.1	0.1	b	B
教育-22	教職員運営事業	9,278	9,877	24,668	25,372	2.0	2.0	b	B
教育-23	学校保健事業	58,814	58,532	70,040	68,604	1.5	1.3	a	A
教育-24	就学事務	262	684	7,746	7,657	1.0	0.9	a	A
教育-25	学校保険事業	11,875	11,841	14,868	13,391	0.4	0.2	a	B

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】 教育行政の推進を図るため、教育委員会の会議を開催し審議した。(教育-01) 学校施設管理・学校給食調理業務等に支障を来さぬよう、非常勤嘱託員や臨時的任用職員を配置した。(教育-02) 小学校に学校警備員を配置し、児童等の安全確保を図るとともに、学校施設に係る機械警備委託事務を行った。(教育-14) 教職員の適正な人事配置を行うとともに、学校管理職としての資質の向上を図るため研修を行った。(教育-22) 児童生徒の健康の確保・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施した(教育-23) 小中学校への就学決定等を行った。(教育-24) 学校管理下に置く児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金等の支出を行った。(教育-25)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
<p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> 人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員の配置を行えた。 小学校への警備員配置は犯罪等に対する抑止効果の面で非常に有効な手段であるため、保護者及び教職員から評価を得ている。 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである。 学校現場や医師会等の関係機関と連携を図りながら適切に事業を進めることができた。</p>			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>教育委員会制度改革の趣旨に則り、関係機関との連携を強化し、より効率的な教育行政の推進を図っていく。 児童生徒及び教職員を巻き込む凶悪事件が多発する中で、県下他市町村に先駆けて、小学校への警備員配置は抑止効果の面で非常に有効な手段であるため、保護者及び教職員から評価を得ており、今後も引き続き事業を実施していきたい。 学校運営を円滑に進めるとともに教職員の健康の増進を図るため、今後も継続して実施していく。 児童生徒が安心して学校生活が過ごせるよう継続して事業を実施していく。</p>

4 平成28年度の目標

<p>引き続き教育委員会の効果的な運営に努め、教育委員会事務局の適正な運営を図る。 学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。 児童・生徒の良好な教育環境を維持するため、学校や関係部局との連携を図り、計画に沿った業務の遂行に努めていく。 学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。 引き続き事業を実施しつつ、法改正による対応やシステム導入などの検証等を行い、事務改善に努める。</p>
--

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	教育-22	事業名	教職員運営事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	教職員の健康診断受診率					単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
健康診断は、教職員の健康の保持増進のために重要であるため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	100.0	100.0									
	達成率	100.0%	100.0%									
整理番号	教育-23	事業名	学校保健事務					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	学校保健会理事会の開催					単位	回	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
学校保健関係者が協議連携を図る場として、開催が必要であるため。	目標値	2	2	2	2	2	2					
	実績値	2	2									
	達成率	100.0%	100.0%									
整理番号	教育-23	事業名	学校保健事務					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	養護部会との定期健康診断打合せの回数					単位	回	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
新年度の定期健康診断について、手引きを示しながら全校栄養教諭との打合せが必要であるため。	目標値	1	1	1	1	1	1					
	実績値	1	1									
	達成率	100.0%	100.0%									

整理番号	教育-24	事業名	就学事務								
指標の内容	学校事務職との研修会の開催回数					単位	回	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
学校事務職員との連携は不可欠であり、市内全校で共通理解を行なうため開催しているものである。	目標値	1	1	1	1	1	1				
	実績値	1	1								
	達成率	100.0%	100.0%								

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の安全対策は重要であり、警備の目があるということが防犯につながる。 通学路に関しては、PTA校外委員や地域自治会などから見守りの協力を得る方向が良いのではないかと。 安全・安心で開かれた学校づくりを目指しているが、閉鎖的にとらえられている部分がある。 学校、家庭、地域が連携をとり、オープンな関係を持つことを望む。 いじめに関してきめこまかい配慮をおこたらないように。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>小学校警備員事業のあり方については、小学校校長会での協議や保護者からの要望を踏まえて、引き続き小学校に学校警備員を配置し、安全対策に努めた。</p> <p>通学路に関しては、学校ごとにPTA校外委員や町内会に見守り等の協力をお願いしているところである。</p> <p>地域やボランティア等との連携をするため、会合や情報交換等を行ってきた。</p> <p>学校は家庭や地域に、学校の方針や取組について、学校だより、懇談会、ホームページなどで発信し、協力を得るなど連携を図っている。総合的な学習は時間等で、保護者や地域の方を講師として授業を実施している例もある。</p> <p>いじめについては、「鎌倉市いじめ防止基本方針」、「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめへの対応を行っている。校内研修で防止や対応について全教職員で共通理解を深めたり、学年や学級で「いじめは絶対にいけないものだ」と指導したりするなど、取組が進められている。</p> <p>取組をより効果的なものとするために、子どもが主体となり、自ら考え、いじめ撲滅に向けて行動していくことが求められている。また、教職員がいじめのサインを見逃さないこと、子どもや保護者の訴えを真摯に受け止め、速やかに対応することも大切である。これらのことについて、引き続き、学校に情報提供及び指導の充実を促していく。</p>
---	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・事業の通常の実行は、滞りなく行われている。
- ・小学校への警備員配置は犯罪等の抑止効果の面で有効な手段として、保護者及び教職員から評価を得ている。
- ・人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員の配置を行えた。
- ・学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置に努めている。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	4	↘	0	→	4			↗		
効果	○	1	△	1	—	6	⇒		—		

《課題》

- ・計画にそった業務の遂行が重視されているが、状況把握の結果、計画を見直す等の行為が行われていない。
- ・評価シート内の目標・実施内容が当然の内容の報告ばかりだが、本施策はそれだけで大丈夫なのか疑問である。現在現場で善処が必要な部分があると思うのだが、それらを把握し指標化することなどが求められる。
- ・会議の回数を指標にするのではなく、その結果どのような対応ができたかを目標に据えることが求められる。目標とすべきまちの姿の文言に対して、提示された事業の指標では何も評価できない。目標を達成するための研修について、学校保健会理事会、養護部会、学校事務職との研修会を年1回開催することで良いのか再検討が求められる。

《提言》

- ・目標に掲げた「児童生徒と教職員や友人との信頼関係」「学校・家庭・地域が協力」という観点の施策への取組をもっと進めるべきである。
- ・事業計画は常に見直す、または現況に応じて臨機応変に対応するなど、その場に最適な事業を行うべきである。
- ・安全、安心で開かれた学校づくりのため、地域・家庭へ情報を提供し、協力しあいながら、学校づくりをすすめてほしい。
- ・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関と連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべきである。
- ・教員の再教育等にもっと力を入れるべきである。
- ・教職員を巻き込む凶悪事件が増えているため、安全性を重視しすぎて閉鎖的にならないよう、学校が身近に感じられるようになる取組も行うべきである。
- ・指標については、現場の状況を把握するためのヒアリングやアンケートの実施回数、それらから把握された案件への対応数なども設定すべきである。